

令和8年度 第1回 追分小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年4月23日（木） 13時20分から15時10分まで
- 2 開催場所 浜松市立追分小学校 会議室
- 3 出席委員 小山 正博、松本 依子、村上 美代子、今泉 るり子、野田 昌宏、齋藤 泰司、丹下 睦治、杉浦 芙実
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 横市 佳音（西部協働センター）
- 6 学 校 澤田 直子（校長）、松田 浩征（教頭・CS担当）、池野 紀子（教務主任）
山田 公子（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 山田 公子

9 会長の選出及び副会長の指名

司会の松田教頭から、会長の選出について委員に意見を求めたところ、小山委員から野田委員を会長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。また、その後、会長に選出された野田委員から、松本委員を副会長に指名する旨の報告があった。

10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、野田会長より松本副会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- （1）追分小学校運営基本方針について
- （2）追分小学校いじめ防止基本方針について
- （3）夢育やらまいか事業に対する意見書について
- （4）学校運営協議会の自己評価項目の確認

12 会議記録

司会の松田教頭から、委員総数8人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）追分小学校運営基本方針について

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき学校運営基本方針について説明があった。今年度、追分小学校の目指す学校像「楽しい学校 追分小」を実現するための具体的な活動の方向が示された。学校教育目標である「やさしく かしこく たくましく 自分を生きる子」を目指すことで、子供たちが学校生活で（徳・知・体）の基礎基本を身につけ、心身ともに健全であること、また、お互いを認め合い、自分自身を大切にしながら受け入れ、自分らしさを思う存分発揮できる場であることを目標とする。

- ① やさしさ 思いやりにあふれ、相手の気持ちを考えて行動できる子
- ② かしこさ 意欲をもって学び、友達と共に磨き合う子

③ たくましさ 目標に向かって、粘り強く挑戦し続ける子

主体性の醸成・振り返り活動の充実・目標に向けての挑戦という多方面からアプローチし、自己肯定感を高める教育に取り組む。子供、教職員問わず『楽しい』は自ら創る」という意識のもとに活動し、協働して取り組み、成し遂げることで、一人一人のウェルビーイングの向上へとつなげる。

また、教職員は子供を支え、固定観念にとらわれず、日々成長する子供たちの現れをおおらかに受容し、子供観の醸成を止めることなく、温かく見守っていく。同時に、教職員自身も明るく健康で、自らの生活を大切にすることが重要であり、ワークバランスを整えていく。

家庭・地域との連携も重要である。多くの人々と関わり、助言を得ることで、地域の中で子供が学んでいく在り方をより充実させたい。学校・家庭・地域が三位一体となって、子供たちの安全な生活を守っていく。そのためには、家庭・地域の方々の支援の力が不可欠である。

加えて、本校は本年度より教育課程柔軟化サキドリ指定校となり、追分小インクルーシブ教育に取り組んでいる。限られた時間を有効活用するため、1単位時間40分とし、午前5時間制とする。午前のみ勤務の支援員の力を最大限生かすなど、チーム追分の強化を図っていく。教職員は並行して、教材研究や研修の充実を図るとともにチーム担任制を導入し、一人で抱え込まず、相談する教職員が複数いる体制を整えていく。なお、試行期間から現在に至るまで、子供たちに大きなトラブルはない。2年の取り組みの間、初心を忘れずに向き合い、軌道に乗せていきたい。

説明を受け、委員からは以下の発言があった。

- ・子供たちに大きなトラブルはないとのことだが、先生方にとっての5分短縮は大変ではないか。具体的な声はあるか。子供が主体的になる意識が大切である。全体として朝は落ち着いてリズムをつかめるようにしていくことで充実していく。(野田会長)
- ・教員からは、準備や片づけを伴う実技系の授業において、実働時間の確保が難しいという声があった。他学年で活動内容を揃え、連続で使うなど工夫している。(澤田校長)
- ・朝の活動は5分刻みとなるため、リズムを整え、子供たち自ら時間の使い方を考え、行動を見直す意識改革のきっかけとなるよう投げかけている。放課後の早い下校により生み出された時間を自分のために没頭する時間として活用できることが今後期待される。(池野教務主任)
- ・40分授業には対応できるが、受け身ではなく、切り替える力や、子供たちの主体性を引き出しながら授業を展開できることが望ましい。(松田教頭)
- ・5分短縮により、子供によっては、理解が深まる前に授業が終わってしまうのではないか。基礎の定着が図れるのかという懸念がある。一方で、パソコンが好きな子供も多いため、ICTをうまく活用しながら子供の学びの底上げをしてもらえたらよい。(今泉委員)
- ・新しい時間制の中で、子供たちは今まで以上に教師の指示をよく聞き、時間を無駄にせず集中して活動できるようになるのではないか。当たり前に行っていた何かを削り、発想を柔軟に変えていく必要がある。チーム担任制は、多角的に子供を見守ることができ、有益である。(松本議長)
- ・日課が変わり、子供たちは自分なりの時間の使い方ができているようだ。この先の進路を考える上で、学習方法も家庭でのフォローの必要性を感じる。多様性を共有する学習が、中学以降どう生かされていくのかが楽しみである。(杉浦委員)

- ・5分短縮されるということは、11%生産性を上げる必要がある。2%上げるだけでも大変なため、学校の中を改革しなければ継続は難しい。また、小・中・高と体制がある程度一貫しないと、子供たちも困惑してしまうのではないかと。(丹下委員)
- ・放課後、運動場で遊ぶ子供が目に入る。安全な場所で、友人同士で遊ぶいい時間を過ごしているように見受けられる。(村上委員)
- ・水曜の情報交換は、具体的にどのような活動か。(齋藤委員)
 - 教材研究や研修、保護者との面談に充てている。また、放課後、教師同士で情報交換している様子もある。(澤田校長)
- ・子供の居場所づくりや選択肢を増やすことが必要である。同時に家庭で会話の時間をもつことも重要である。学校以外の関わりの輪が縮小している昨今、子供たちの過ごし方や、育てたい力について、学校・家庭・地域が三位一体となって共有し、意識改革の必要がある。(横浜市オブザーバー)
- ・家庭で会話する中で、自分の経験を伝えていくことも大切である。現在、共働き家庭も多く子供は学校だけでなく、地域・学童でも見守っていく必要がある。学習において、学校だけでは足りないことも出てくるであろう。これまで培ってきた経験やよい実践を、可能な範囲で子供たちに伝えていきたい。(小山委員)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(2) 追分小学校いじめ防止基本方針について

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき追分小学校いじめ防止基本方針について説明があった。いじめは絶対に許さないという方針や、未然防止、早期発見についての説明があった。子供の心を安定させ、見逃しゼロを目指し、児童の様子を注視していく。同時に、小さなトラブルでも子供たちが勇気をもって相談し、打ち明けてくれることが対応への素地になると信じている。教員はまっすぐ受け止め、寄り添っていく。

年間計画を立てている。→ホームページに詳細記載あり。

(3) 夢育やらまいか事業に対する意見書について

議長の指示により、教頭から、別紙資料に基づき学校に必要な支援について説明があった。

(4) 学校運営協議会の自己評価項目の確認

議長の指示により、会長から、別紙資料に基づき自己評価項目について確認があった。

<その他報告事項等>

学校支援コーディネーターの今泉委員より、本年度の活動予定が報告された。昨年の活動を中心に、新たな活動も模索していく。

司会から、次回会議は、2026年6月16日(火)午後1時20分から追分小学校会議室で開催する旨の報告があった。